

平成27年度以前入学生用のパンフレットを改訂したものです。(令和2年4月1日)

## 教養教育の改革

### ■ 平成28年度の教養教育改革とは？

(1) 全学共通授業科目の科目区分が変わります。

現在の科目区分	→	平成28年度からの科目区分
教養原論		基礎教養科目 総合教養科目

(2) 全学共通授業科目はクォーター開講科目となります。

現在の開講	→	平成28年度からの開講
週1コマ×16週 (試験期間を含む)		週1コマ×8週※ (試験期間を含む)

※ 1科目あたりの単位数が現行の半分になります。

※ 科目の性質上、セメスター開講科目や集中講義等もあります。

## 平成28年度からの履修方法概要

### ■ 2学期クォーター制導入・教養教育改革による、平成28年度からの履修方法は？

平成27年度以前入学者の必要修得単位数(卒業に必要な単位数)は、入学時の規則で定められたもの(入学時に配付された学生便覧に掲載)から変更されません。

ただし、平成28年度から開講する授業科目の中には、「科目の読替(詳細P.2)」等がありますので、掲示板やHP等で情報を十分に確認の上、履修してください。ここでは、全学共通授業科目の履修方法・注意点と、全学部共通の制度・措置等について説明します。

各学部専門科目の履修については、各学部の掲示板等で確認してください。

### 全学共通授業科目の履修方法・注意点

全学共通授業科目の履修方法詳細は国際教養教育院のHPを参照してください。  
<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/zengaku.htm>



### (A) 教養原論

#### ■ 平成28年度からの開講

現在「教養原論」として開講している科目は、「基礎教養科目」「総合教養科目」として開講します。多くの科目は1単位の「クォーター開講科目」となります。

#### ■ 履修方法

所属学部が定める「教養原論」の必要修得単位の不足分を、「基礎教養科目」「総合教養科目」の科目区分から履修してください。

平成27年度までの「教養原論」の修得単位数 + 「基礎教養科目」「総合教養科目」の修得単位数 = 「教養原論」の修得単位数

「基礎教養科目」「総合教養科目」のいずれの科目区分から修得しても、全て「教養原論」の修得単位数となります。ただし、平成28年度以降の開講科目の授業内容が、平成27年度までに修得した科目と重複する場合は履修できません。

例1) 教養原論「分子の世界」を修得済みの場合→基礎教養科目「化学A」「化学B」は履修できません。

例2) 教養原論「日本史」を修得済みの場合→総合教養科目「日本史A」「日本史B」は履修できません。

上記の理由により履修できない科目については、国際教養教育院のHPに掲載しているA表(科目対照表)で確認してください。

#### A表(科目対照表例)

現在		平成28年度から			
教養原論		基礎教養科目		総合教養科目	
科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
分子の世界	2	化学A	1		
		化学B	1		
日本史	2			日本史A	1
				日本史B	1
行動と規範	2	対応する科目の開講はありません。			

#### ■ 履修登録

「基礎教養科目」「総合教養科目」は、人数制限があるため事前に抽選登録を行います。各学部で配付される時間割を確認の上、抽選登録により履修登録してください。なお、「総合教養科目」には、別途、申込みが必要な科目もあります。詳細は、鶴甲第一キャンパスK棟事務室掲示板や国際教養教育院のHP、うりぼーネットで確認してください。

## (B) 外国語科目・健康・スポーツ科学・情報科目・共通専門基礎科目

※ ここでは、平成28年度からの開講科目を「新科目」、平成27年度までの開講科目を「旧科目」と呼びます。

### ■ 平成28年度からの開講

2学期クォーター制への学事暦の変更により、外国語科目等は、「旧科目」に対応する「新科目」を「クォーター開講科目」として開講します。多くの科目名には、履修順序を示す数字が記されています。

### ■ 履修方法（科目の読替）・単位の修得

「旧科目」に対応する「新科目」2科目に合格することで、「旧科目」の単位を修得したものとみなす、「科目の読替」を行います。科目の対応について、国際教養教育院のHPに掲載しているB表(新旧対応表)で確認の上、「新科目」を履修してください。平成27年度以前に履修した科目の再履修の場合も履修方法は同じです。

「科目の読替」に該当する「旧科目」の成績は、「新科目」2科目の成績の平均となります。ただし、2科目のうち、いずれか一方が不合格の場合、単位は修得できません。

※B表のケース2のように、「微積分入門1」に合格し、「微積分入門2」が不合格の場合、「微積分入門2」をもう一度履修し合格すれば、「微積分入門1」の合格とあわせて「微積分学入門」の2単位を修得できます。（「合格」とは、「可」以上の成績あるいは、合否判定で「合格」のこと。）

### B表(新旧対応表例)

#### ケース1〔外国語科目〕

旧科目		新科目
科目名	単位数	科目名
ドイツ語ⅢA	1	ドイツ語中級C1
		ドイツ語中級C2

第1クォーターに  
「ドイツ語中級C1」を履修  
第2クォーターに  
「ドイツ語中級C2」を履修

「ドイツ語中級C1」合格  
「ドイツ語中級C2」合格

読替

前期学期末に  
「ドイツ語ⅢA」  
(1単位)を修得!  
成績は2科目の平均

#### ケース2〔共通専門基礎科目〕

旧科目		新科目
科目名	単位数	科目名
微積分学入門	2	微積分入門1
		微積分入門2

第1クォーターに  
「微積分入門1」を履修  
第2クォーターに  
「微積分入門2」を履修

「微積分入門1」合格  
「微積分入門2」不合格

読替

前期学期末の時点で  
「微積分学入門」の  
単位は修得できない

※「微積分入門2」をもう  
一度履修し合格すること  
で、「微積分学入門」の  
2単位を修得できる。

### ■ 履修登録

各学部で配付される時間割を確認の上、第1・第2クォーターに履修する科目は4月の、第3・第4クォーターに履修する科目は10月の履修登録期間に登録してください。シラバス等で「〇〇学1,2の順で履修するように」という履修順序の指示がある場合、これに従ってください。ただし、「〇〇学1」が不合格になっても、「〇〇学2」の履修は可能です。

### ■ その他注意

○受講許可が必要な場合は、以下の「全学部共通の制度・措置等」の「受講許可」欄を参照してください。

○科目の性質上、**セメスター開講科目(週1コマ×16週)**として開講する科目がありますので注意してください。

## 全学部共通の制度・措置等

<b>成績発表・単位修得時期</b>	成績発表・単位の修得時期は現行どおり学期末ですので、うりぼーネットの「単位修得状況照会」で確認してください。学業成績証明書に成績・修得単位が反映されるのも学期末です。「科目の読替」に該当する「旧科目」の成績は「単位修得状況照会」でのみ確認できます。	<b>受講許可</b>	受講許可が必要な場合は、初回の授業までに、授業を開講する学部の教務担当係に申し出て、手続きの方法を確認してください。受講許可カードを貰い、初回の授業で担当教員から許可を受けるなどの手続きが必要です。なお、第2クォーター、第4クォーターに受講を希望した科目の受講許可が得られず、他の科目の履修を希望する場合は、所属学部の教務担当係に相談してください。
<b>追試験</b>	追試験は特別な理由のある場合に限り、クォーターごとに行います。追試験の受験を希望する場合は、授業を開講する学部の教務担当係で詳細を確認してください。なお、追試験実施時に休学している場合は、受験することができません。※「追試験」とは、病気等のやむを得ない場合に限り、試験日とは別に行う試験のことです。	<b>再試験</b>	再試験は学期末に行います。第1・第2クォーターの場合は9月、第3・第4クォーターの場合は3月に行います。クォーターごとには実施しませんので、注意してください。学部・授業科目により対応が異なるため、詳細は授業を開講する学部の教務担当係で確認してください。なお、再試験実施時に休学している場合は、受験することができません。※「再試験」とは、条件を満たす場合に限り、同一科目の試験を再度行うことで、「再試験制度」に関する定めがある学部・学科等について、特定の授業科目のみ行います。
<b>CAP制</b>	所属学部の履修登録の上限単位数に留意し履修登録を行ってください。なお、クォーターごとの上限設定はありません。	<b>GPA制度</b>	計算方法は現行のとおりです。うりぼーネットの「単位修得状況照会」で確認してください。なお、「単位修得状況照会」のGPA(学期)が更新されるのは、クォーターごとではなく、単位修得時期と同様に学期末です。
<b>成績評価に関する申し立て</b>	成績評価に関する申し立てを行う場合は、学生便覧に掲載されている「成績評価に対する学生の申し立てに関する内規」に基づき、手続きを行ってください。発表後1週間以内に手続きを行ってください。詳細は学生便覧等で確認してください。なお、第1クォーター、第3クォーターの授業科目の成績評価に対する申し立ての結果、第2クォーター、第4クォーターに履修登録済みの科目の取り消しを希望する場合は、速やかに所属学部の教務担当係に申し出てください。	<b>特例措置</b>	留学等しても授業を履修しやすいよう、以下の措置を行います。詳細は、所属学部の教務担当係で確認してください。 ●学期始めに休学している場合の第2クォーター、第4クォーターの履修について 学期始めに休学しており第2クォーター、第4クォーター開始までに復学する場合で、第2クォーター、第4クォーター開講科目の履修を希望する場合は所属学部の教務担当係に申し出、授業開始から1週間以内に履修届(履修登録一覧)を提出してください。 ●第1クォーター、第3クォーターに在学し、その後休学する場合の単位の修得について 第1クォーターの在学の後、7～9月の期間を休学しても、第1クォーターの単位を学期末に修得することが可能です。同様に、第3クォーターの在学の後、1～3月の期間を休学しても、第3クォーターの単位を学期末に修得することが可能です。

# 2学期クォーター制の導入によるメリット

## 2学期クォーター制

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
前期						後期					
第1クォーター		第2クォーター		夏休み		第3クォーター		第4クォーター		春休み	

【履修計画例】



## 1 留学しやすくなる

これまでは、学期途中で留学すると、その学期の単位を修得することは困難でした。しかし、2学期クォーター制では、1つのクォーターと休みの期間を組み合わせることで、在学したまま海外の大学のサマースクールや短期留学に参加した上、4年間で卒業することも可能となります。

## 2 多様な学外活動

まとまった時間を利用してボランティアやインターンシップに参加する等、4年間の大学生活でできることを選択肢が増えます。

## 3 集中的に学修

週1コマ8週の授業、あるいは週2コマ8週の授業により短期集中的に学修することができます。

# 平成28年度以降も変わらないこと

2学期クォーター制の導入後も、学籍・授業料の取扱いに関する変更はありません。

- **単位修得時期** → **学期末**  
単位の修得は現行のとおり学期末です。
- **休学** → **事前に休学願を提出し許可を得る**  
(教学規則 第41条) 学生が、疾病その他の理由により、3ヶ月以上修学を休止しようとするときは、所属学部長の許可を得て休学することができる。  
\* 休学を希望する場合は、必ず事前に所属学部の教務担当係に相談してください。特に学期途中の休学については、願い出の日により授業料を免除できる期間が異なりますので、注意が必要です。
- **卒業** → **3月または9月に卒業**  
単位修得時期が現行のとおり学期末のため、卒業時期にも変更はありません。また、現行のとおり、卒業判定を受ける学期にひと月でも休学期間があると卒業できません。3月に卒業する場合は、後期（卒業する前年の10月～翌年の3月）の在学が、9月に卒業する場合は、前期（卒業する年の4月～9月）の在学が必要です。
- **授業料** → **学期ごとに年額の2分の1に相当する額を納付期間中に納付**  
(教学規則 第50条) 授業料は、次の2期に分け、年額の2分の1に相当する額をそれぞれその納付期間中に納付しなければならない。  
《期別》 前期(4月から9月まで)      《納付期間》 4月1日から4月30日まで  
          後期(10月から3月まで)              10月1日から10月31日まで

# Q & A

- **なぜ2学期クォーター制になるのか？**..... 神戸大学は、「学理と実際の調和」という開学以来の教育方針の下、グローバル化に対応した様々な教育プログラムを開発してきました。しかし、このようなプログラムに参加できる学生の数は限られており、より多くの学生を、自ら地球的課題を発見しその解決にリーダーシップを発揮できる人材へと育成することが課題となっています。2学期クォーター制もその課題への取り組みの一部として導入するもので、留学等の海外体験の促進、留学生の受入れ増加につなげることを主な目的としています。
- **なぜ教養原論を変更するのか？** ..... 平成28年度からの教養改革の一つとして、教養原論を見直し、専門分野以外の学問の基本的な考え方やもの事の見方の基礎を学ぶ「基礎教養科目」と、グローバルな課題や歴史・文化などの多様な分野を学ぶ「総合教養科目」に区分しました。  
現在の教養原論では、学生は70を越える科目から必要な単位数の科目をアラカルト方式で選択履修するカリキュラムでしたが、基礎教養科目により「複眼的に思考する能力」を、総合教養科目により「多様性と地球的課題を理解する能力」を身につけることにより、本学が目指す「課題発見・解決型グローバル人材」の育成が一層期待されることになります。  
平成27年度以前入学生においては、2つの区分から教養原論の不足単位を履修することになりますが、各科目の学修目標を理解し履修するよう推奨します。
- **ちゃんと卒業できるか心配**..... 卒業に必要な単位数は、入学時の規則で定められたもの（入学時に配付された学生便覧に掲載）から変更されません。2学期クォーター制は前期・後期の授業がクォーターごとに開講されるということです。科目の読替や、履修登録期間等のスケジュールに注意して、必要な単位を修得するようにしましょう。（掲示板やうりぽーポータルのチェックを忘れずに！）

## 問い合わせ先

2学期クォーター制・教養教育改革について

大学教育推進機構国際教養教育院  
学務部学務課教育改革グループ(鶴甲第一キャンパスK棟事務室)  
stdnt-kaikaku@office.kobe-u.ac.jp

各学部の授業科目について

各学部教務担当係

**学部生用パンフレット** 平成27年度以前入学者対象(医学部生は除く)

随時、うりぽーポータルにて情報をお知らせする予定です。  
<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/student.html>

